

37号のテーマは「じっくり読む」

暑い夏は涼しい部屋で本を読みませんか？ 吉祥院図書館の職員が夏休み期間にじっくり読んでほしい本を選びました！
全て吉祥院図書館にある本です。貸出中の場合は「予約」もご利用ください！

こいけ ようじ
小池 陽慈

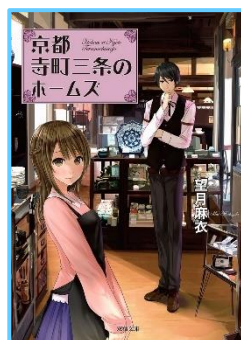
『スマホ片手に文学入門』
(笠間書院刊)



文学作品を読んで「…それで、何が言いたかったん？」となった経験、ありませんか？
そんな作品も、スマートフォンを使えば新しい発見があるかも。文学の楽しみ方を知ることができる一冊です。

もちづき まい
望月 麻衣

『京都寺町三条のホームズ』
(双葉社刊)



22巻まである大人気シリーズ作！京都の寺町三条商店街にある骨董品店を舞台に様々な依頼をホームズと葵が解決します。京都の実在する場所も多く登場するので夏休み中に足を運んでみませんか？

ブレイディみかこ

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』
(新潮社刊)



名門小学校から、底辺(元)中学校へ入学することを自ら決めた、著者(パンクな母ちゃん)の息子のぼく。「共感とはなにか」という試験問題に対し、ぼくは興味深い回答をします。さて、あなたの答えは？

やの こうへい
矢野 耕平

『13歳からのことば事典』
(メイツ出版刊)



皆さんは日常会話において「やばい」といった決まり文句だけで伝えていませんか？
日本語には、様々な素敵な言葉の表現が存在します。この本をじっくり読み、語彙を学び、表現力をのばしてみてください。

かんばら りえ

イエバ・スカリエツカ／著、神原 里枝／訳
『ある日、戦争がはじまった』
(小学館クリエイティブ刊)



これは、ウクライナの都市ハルキウに住み、突然戦争に巻き込まれた12歳の少女の日記の日本語訳です。同年代の若者の経験や思いを知り、「自分はどうするのか」を考えるきっかけにしてください。